

2023 年第 4 回 IEEE 東京支部理事会 議事録（案）

日 時：2023 年 12 月 1 日（金）15:00～17:30

場 所：IBM 会議室

出席者：相澤 Chair、佐田 Vice Chair、奥村 Secretary、樋口 Treasurer

<以下、順不同>

添谷 COC Chair、森田 FNC Chair、賀屋 MD Chair、中村 NC Chair、松尾 TPC Chair、吉田 SAC Vice Chair、廣畑 PC Chair、河東 HC Chair、太田 LMAG Chair、石垣 YP Chair、Kawamoto WIE Chair、重松 Past Secretary、西宮 SIGHT Chair、滝嶋 SIGHT Vice Chair、土屋 TOWERS 実行委員、野添 JO Director

事務局：加藤事務局員

幹事会社：金、木村

議題：

1. 前回理事会議事録の確認【審議】 (資料 1)
2. 2023 年東京支部活動報告 (資料 2)
3. 2023 年東京支部決算予想 (資料 3)
4. 委員会 2023 年活動報告・予算執行状況および

2024 年活動計画・予算案【審議】

- ・ Chapter Operations Committee (資料 4-1)
- ・ Fellow Nominations Committee (資料 4-2)
- ・ Membership Development Committee (資料 4-3)
- ・ Technical Program Committee (資料 4-4)
- ・ Publications Committee (資料 4-5)
- ・ Student Activities Committee (資料 4-6)
- ・ History Committee (資料 4-7)
- ・ Nominations Committee (資料無し)

5. Affinity Group 2023 年活動報告・予算執行状況および

2024 年活動計画・予算案【審議】

- ・ Life Members Affinity Group (資料 5-1)
 - ・ Young Professionals Affinity Group (資料 5-2)
 - ・ Women in Engineering (資料 5-3)
6. 2024 年東京支部活動計画【審議】 (資料 6)
 7. 2024 年東京支部予算【審議】 (資料 7)
 8. その他
 - ・ MAW2024 開催について (資料 8-1)

- ・ HTC2025 招致について (資料 8-2)
- ・ VIC Summit 2025 招致について (資料無し)
- ・ SIGHT 報告 (資料 8-4)
- ・ TOWERS 報告 (資料 8-5)
- ・ 【参考】IEEE 東京支部 メール審議記録

【議事】

0. IEEE 東京支部相澤 Chair より開会の挨拶

相澤 Chair より開会の挨拶が述べられた。

1. 前回理事会議事録の確認 【審議→承認】 (資料 1)

奥村 Secretary より前回理事会の議事録について説明があり、審議・承認された。

【質疑応答】

滝嶋 SIGHT Vice Chair より誤字の指摘があり、資料を修正後保管することとなった。

2. 2023 年東京支部活動報告 (資料 2)

奥村 Secretary より 2023 年の東京支部活動報告内容の報告があった。

Membership Development 関連では、Senior を増強する目的で、Senior Member 申請支援ウェビナーを新たに実施したということだった。また、JC では Promotion Ad-hoc Committee を新設した。東京支部とも連携していくことになっている。Milestone 関連では、TRON リアルタイム OS の授賞式が行われた。

3. 2023 年東京支部決算予想 (資料 3)

樋口 Treasurer より配布資料に沿って 2023 年決算予想計報告があった。

収入については、SB(Student Branch)の Rebate が 5 か所に入っており、年間予測では予算比 106%という見込みの予測を立てている。支出では、SB の支援費、LMAG の活動費、Council の拠出金以外は中間の値からそれなりに増えており、予算比 98%を見込んでいる。当初予測より収入が増えたが、収支差はマイナスになると予想している。

4. 委員会活動報告 (資料 4-1)

・ Chapter Operations Committee

添谷 COC Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年 1 月から現時点までに、TCS 4 件、FCS 3 件に関する審議、及び東京支部への承認答申を行った。2024 年より Chapter 活動支援費の審査業務が導入されるため、JC COC からの引継ぎ作業が段階的に進行中。12 月中旬に 1 度引継ぎ、1 月 15 日くらいから本稼働

を開始し、1 月後半に東京支部支援作業開始となる予定である。2024 年は Chapter 活動支援費の審査業務の円滑な立ち上げに力を入れる。

・ **Fellow Nominations Committee**

(資料 4-2)

森田 FNC Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は IEEE Fellow 増強に向け、有力候補者が多数含まれる国内関連学会 Fellow への働きかけを新たに行った。電子情報通信学会、応用物理学会、情報処理学会へ協力の打診を行ったところ、応用物理学会と情報処理学会の協力が得られることになり、両学会の Fellow 向けに案内が発信された。2024 年は働きかけを行う学会の拡大を検討する。2024 年の Fellow 昇格者が日本は 11 名（昨年は 15 名）であり、東京 Section からは 6 名（昨年は 9 名）である。

質疑応答では、相澤 Chair より電気学会や映像情報メディア学会など、連携の輪を少しずつ広げたいとの話があった。

・ **Membership Development Committee**

(資料 4-3)

賀屋 MDC Chair より配布資料に沿って報告された。

今月の会員数は 7,655 人で、前年同月比を見ると増えている。2023 年は Senior Member 昇格の申請者を増やすため、申請支援ウェビナーを JC と共催で行い、直近の昇格者の体験談、審査側の情報などを提供した。Web サイトに動画を掲載し、いつでも見られるようにしている。Senior Member 申請支援ウェビナーの出席者数 47 名。アンケート回答者は 36 名で、満足度は 5 点満点の 4.6 点で非常に好評だった。2024 年度は、3 人の Reference を自分で用意することが難しい方のための支援の仕組みづくりを行う予定である。

質疑応答では、JC からの Section Assessment 還元について議論があり、現在の割当分について見直す必要があるのではというコメントがあった。

・ **Technical Program Committee**

(資料 4-4)

松尾 TPC Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年度は講演者の意向に沿う形で開催形態を決め、その結果、講演会はほぼ全てが会場とオンラインのハイブリッド開催となった。会場での聴講者を集めるために、事前告知のチラシ作成及び HP の講演概要にも図の挿入など分かりやすくする工夫を行った。また現地参加者向けノベルティも作成した。2024 年度もハイブリッド開催が基本になる可能性が高いため、配信の品質向上や作業効率を向上するための必要機材のアップデートを図る予定。予算の関してはハイブリット用の機材充当のための物品費などを予算に組み込んでいる。

・ Publications Committee

(資料4-5)

廣畑 PC Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は IEEE Tokyo Bulletin を関係各位のご協力により予定通り発行した（見込み含め 6 件）。具体的には理事会報告、LMAG イブニングサロン、SIGHT イベントの Humanitarian Activities Workshop in Japan 2023 など。R10 のニュースレターは杉江 LMAG Secretary の寄稿 2 件があった。東京・信越 WIE 開催報告も掲載されている。2024 年も IEEE Tokyo Bulletin(日／英)の発行とメール配信を通じて会員へのタイムリーな情報配信を行う予定。

・ Student Activities Committee

(資料 4-6)

吉田 SAC Vice Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は 14 件のイベントを開催した。また、千葉商科大学 SB が新たに立ち上がり、12 月下旬にキックオフ・イベントを開催予定している。また、10 月下旬に TOWERS 運営メンバーへの感謝状贈呈、キャリアデベロップメントワークショップを行った。2024 年は同イベントを継続して実施する他、SB から YP へのエレベーションに繋がるよう他 Affinity Group との連携に力を入れる。

・ History Committee

(資料 4-7)

河東 HC Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は多数の Milestone 申請援助、授賞式支援を行うなか、個々の状況に合わせて、慣例と異なる方式に取り組んだ。例えば、1 件で申請した奥村カーブと商用セルラーシステムをアドボケートの進めに従い 2 件に分割するなど。また、サイテーションへの個人名記載は原則不可だが、提案者の御希望に合わせ本部と交渉を重ねた結果、名入れに成功した。なお、JC HC は各支部持ち回りで年 1 回開催されるが、2024 年は東京 Section が開催の当番となる。10 月頃に委員会、見学会（東芝未来科学館）を実施する予定である。

・ Nominations Committee

中村 NC Chair より配布資料に沿って報告された。

次期役員と理事の候補者名を 2024 年 5 月 17 日までに事務局に連絡してほしい。今回は Chair のみの選出で、Vice Chair、Secretary については 11 月頃が期限となる。候補者については第 2 回の理事会で承認頂く予定。会員には Tokyo Bulletin を使って 7 月までに連絡する。会員から追加の指名がある場合には 8 月末までに連絡をもらう。追加指名があった場合には投票がされる。会員から追加指名がない場合には、その旨を第 3 回の理事会で承認して頂き、会員向けに追加指名なしの連絡をする。理事会承認理事および東京支部代表 JC 理事、常設委員会メンバーを第 4 回理事会で承認頂く予定。指名候補者は総会で承認される。

質疑応答を経て、すべての委員会の来年度の活動予定と予算について承認された。

5. Affinity Group 活動報告

・ Life Members Affinity Group

(資料 5-1)

太田 LMAG Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は、東京 Section TPC ならびに他の Affinity Group とも連携し、魅力ある講演会、イブニングサロン、技術現場見学会などのイベント（見込み含め 12 回）を実施し、LMAG-Tokyo ニュースレター（見込み含めて 3 回）、および R10 Newsletter などを通じ、積極的に活動を広報した。2024 年は引き続き、東京 Section TPC ならびに他の Affinity Group（SYW）、SIGHT など若い世代、女性とも連携する。多くの会員に魅力ある講演会、イブニングサロン、技術現場見学会などを企画・実施する。

・ Young Professionals Affinity Group

(資料 5-2)

石垣 YP Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は新たな取り組みとして小学生向けプログラミングイベントを実施したり、キャリア支援系イベントを復活させたりと、対面イベントの実施を推進してきた。これらの活動に共催などで学生にも参加してもらい、将来の YP を担う学生たちとの繋がりを深められたと考えている。2024 年は本年同様に多様な人材交流機会の拡充を意識しながら、現在 YP 活動に参加していない若手 IEEE 会員にもアプローチしていきたい。予算に関して R10 の SYWL Congress 参加費は 4 名分を見積もっているが、支部で 2 名ほど確保することになれば、増額になる可能性がある。

・ Women in Engineering

(資料 5-3)

Kawamoto WIE Chair より配布資料に沿って報告された。

2023 年は 1) WIE membership は男性にも女性にもオープンであること、IEEE student, graduate student, life members にとっては会費が無料であることをイベントなどで広く説明し、2) Annual WIE 2023 symposium で日本語と英語のプログラムを組み、ハイブリッド方式で外国からや日本在住の外国人ゲストも参加できる形を取ることにした。2024 年は続けて engineering career の各ステージにいる男女に WIE 活動の中には safe, inspiring, uplifting, informative スペースを提供し、Senior Member に昇格した WIE メンバーを労うセレモニーを企画する。

LMAG、YP、WIE の 2024 年活動について審議され、承認された。

6. 2024 年東京支部活動計画 【審議】

(資料 6)

7. 2024 年東京支部予算 【審議】

(資料 7)

まず、奥村 Secretary より配布資料に沿って説明があった。

2024 年の東京支部の予算はこれまでの議論で自動的に承認されたことになると思う。追加説明すると、円高などの変動があるが、そのような中でハイブリッドのイベントなども活用している状況。IP(Industry Promotion)関係では、MAW(Metro Area Workshop)が今回信越支部で1周することを受け、来年の東京支部での開催を検討中。また、東京支部が主幹となる様々な Chapter の予算は、これから報告があると思うが、HTC2025 東京開催や、VIC2025 など、色々な国際会議が東京で開催される予定で運営していく。

次に、樋口 Treasurer より説明があった。

次年度に向けて為替レートの予測をする必要があり、日本総研、三菱 UFJ 銀行の来年の予想平均値である 140 円をベースに、リスク回避の観点で 135 円となった。予算だが、収入は 2023 年と大差ない。SB の Rebate について前回から変わっているが、他の箇所は変更なし。支出で SIGHT の部分は後ほど議論になる可能性もある。その他はほぼ例年通りであるが 2024 年は役員交代の年でもあり、最後の理事会で懇親会もあるため、理事会の会費は増額した。広告費はほとんどがシニアメダル関係だが、減額。2023 年は Sections Congress への派遣旅費を考慮して予備費を増額していたが、2024 年は戻している。

以上で組んで、収入から支出を差し引くとマイナスとなり、繰越金が当初予定よりも減った金額となる。

【質疑応答】

WIE の 2024 年の予算申請額について議論があり、記載ミスであることがわかった。

また、繰越金の考え方や数年に一回あるイベントに向けた特別予算を立てるなどについて議論があり、樋口 Treasurer より継続して議論したいとの回答があった。更に、現在は Fund が使えた場合、支出の部分で額を差し引く形になっているが、予算の段階で収入に記載した方がよいのではというコメントがあった。

2024 年の予算については、記載ミスなどの修正が必要であったため、奥村 Secretary よりメールで審議するとの提案があった。

8. その他

【MAW2024 開催について】

(資料 8-1)

奥村 Secretary より、MAW2024 の開催について説明があった。

全ての支部で一巡し、二巡目については東京支部に任された。社会課題にフォーカスを充て、地域ごとの産業活性化への IEEE の関わり方をテーマに、地域の産業関係の企業やスタートアップ、IEEE 会員企業などで議論する場にするのはどうか？という提案。課題としては、スケジュールが多少タイトであること。テーマについては多様性を活用してイノベーションを起こすというもので、多種多様な企業間でのコラボレーションを図るという運営を検

討している。この方向でいくのであれば、具体的なプログラム内容を検討していきたい、12月のJC理事会で報告し、最終的には予算も組み、3月には固めたい。また、名称変更については、IPCから提案があり検討中である。

質疑応答では、MAWやSYWLの参加人数に関する質問、それぞれの日程についての議論などがあった。奥村 Secretaryからは、MAWとSYWLを一緒に開催する方向で検討を進めるとのコメントがあった。

【HTC2025 招致について】

(資料 8-2)

滝嶋 SIGHT Vice Chair より HTC2025 招致について説明があった。

IEEE Region10 のフラグシップ会議の1つである HTC2025 を、2025 年 9 月/10 月に東京支部にて開催すべく、招致準備を進めており、結果待ち中。正式の通知は12月の中旬くらいと言われている。承認されたら、正式に実行委員会を立ちあげることになる。特にテクニカルプログラム関係はいくつかセッションがあるため、東京 Section のご協力をお願いしたい。HTCの方では、SDGsをテーマとしており、幹事会社含めた大きな企業の取り組みを紹介するブースを構えたり、スポンサーになって頂いたり等を想定している。2024年のMAWの方の取り組みと連携しながら、重ならないように調整したいと考えている。

【VIC Summit 2025 招致について】

野添 JO Director より VIC Summit 2025 招致について説明があった。

本件の主催が本部。このセレモニーは IEEE の中で最も格の高いアワードセレモニーであり、毎年5月に開催されている。現在2025年の開催都市の審査中。来年1月31日までに開催都市が決定し、2024年5月開催のVICサミットで発表する予定。現在は東京 Section やJCオフィスと協力体制で誘致活動を行っている。日本では5月にGWがあるため、ご意見を聞きたい。参加者は全体で600人、国内450人以上、海外150人以上を目標にしている。また、この件はスポンサー企業を募集している。セレモニーでは日本の受賞者数も多く、ここでスポンサー企業になって頂くと、全世界に向けて広くPRできる機会となる。

【SIGHT 報告】

西宮 SIGHT Chair より資料に沿って報告があった。

2023 年は第1回 IEEE Humanitarian Activities Workshop in Japan を、東京 Section のみならず全国を対象に開催した。2024 年も引き続き全国に向けて Humanitarian Activity の活性化に向けて第2回 IEEE Humanitarian Activities Workshop in Japan を開催したい。また、2023 年と同様に R10 HTA や HTB の Fund 獲得にも挑戦する。さらに、第1回 IEEE Humanitarian Activities Workshop in Japan で得られた縁をきっかけに、ソーラーシェアリングを行っているブルーベリー農園見学も予定している。2024 年予算は、情報収集のため

の HTC2024 への派遣、Workshop 開催費を SIGHT から出したいので、増額している。

SIGHT2024 年活動予算については審議され、承認された。

【TOWERS 報告】

土屋 TOWERS 実行委員より資料に沿って報告があった。

TOWERS は分野を超えた若手研究者同士の交流を目的とした Workshop。今年度は 20 回目で、10 月 22 日に神奈川工科大学で開催された。IEEE 東京支部と東京 YP、東京・信越 WIE との共催。丸善雄松堂株式会社と株式会社 AIdeaLab に協賛としてご協力頂いた。ポスターセッションでは 60 件の発表があり、5 名の受賞者を決定し、表彰した。ポスターセッションの後にグループワークセッションを行い、株式会社 AIdeaLab のご協力のもと、「AI ツールを用いた研究活動の未来」というテーマではじめに AIdeaLab さんから話題を提供してもらい、グループに分かれてディスカッションをするイベントを行った。

【質疑応答】

質疑応答では、広島の EISS と情報交換することについてコメントがあった。